

図書館だより



第46号
平成31年1月24日発行

鹿児島純心女子短期大学図書館
KAGOSHIMA Immaculate Heart college LIBRARY

「図書館に思いを寄せて」

現代ビジネスコース

准教授 塩屋 好之

私の小学校時代は、古い木造の校舎で廊下を歩くとギシギシと鶯張りのように鳴ったのを覚えています。そんな校舎で図書室は一番奥にあり、音がしないようにそっと歩いて図書室に行っていました。そして中に入ると、新しい未知の世界がそこから広がっているような、とても新鮮な気持ちがあったのを覚えています。友達と図書室へ行って図鑑を見たり、小学生向けのイラストのたくさん載った自然科学の本を読んだりしていました。

そのような中、私の図書館への思いは、自分の人生の転機になるような本に出会えたことです。小学校・中学校の頃は自然科学のほか児童文学書もよく読んでいたように思います。特に私の出身の小学校は愛媛県松山市にあり、当然夏目漱石の本はよく読んでいました。『吾輩は猫である』『虞美人草』『三四郎』『坊っちゃん』等その中でも誰もが1度は読んだことのある『坊っちゃん』は私の人生の転機になった本です。当時はまだ幼くて本の内容すべてを把握していたわけではありませんが、坊っちゃんと赤シャツとの痛快なやり取り、山嵐との友情に感動したものです。そして夢は教師になることでした。

時は移り、高校時代は今までとは逆に殆ど図書館には行かず映画に傾倒し、よく映画館に行っていました。そして感動した場面に思いを馳せ、映画と同じ本があればそれを買って読んでいたものでした。「カサブランカ」「風と共に去りぬ」「駅馬車」等古典的なものから、チャールズブロンソン主演作、ヒッチコック作品、チャップリン、マカロニウェスタン、007シ



リーズ等いろいろなジャンルの映画を観てはその作品に没頭した思い出があります。

社会人になると、逆にビジネス書を買ってあさり、正にビジネス界を生きるためのノウハウを吸収すべく、業界、マーケティング、経営手法等の本を読み、実務と照らし合わせながら、その中で大学と実務とのギャップを認識しました。特に松下幸之助の著書『道をひらく』は当時ベストセラーであり、社会人のバイブルでもありました。本書の初版が出たのは1968年なので、すでに「古典」といってもいいかもしれませんが、その内容は決して色褪せていません。それは、著者が時代によらない普遍的な真理を洞察していたからであり、また、著者の理想とした「身も心も豊かな社会」がいまだに実現していないからだろうと思います。飾り気のない文体は、礼節を重んじ、謙虚に人に接することを常に説いた著者の人柄がにじみ出ており、思わず引きこまれてしまいます。社会人だけでなく、大学生や高校生にも手にとってもらいたいと思います。きっと何かを発見できるでしょう。

そして、念願の高校教師として人生出発しました。前職の公立高校では、やはり専門の商業

関係の本を買って読んでいました。ただ簿記等商業科目は商法、会社法等の改正で授業内容が変わるため、常に新しい情報が必要でした。そのため、今振り返ると、様々な関連の分野の本を読んでいたような気がします。そして読んだ本は、その時々自分の置かれた立場で少なくとも得たものがあったように思います。

学生時代に読んで今も大切にしている本があります。『俺の胸に火をつけた言葉』（加藤諦三：大和書房）です。内容はいろいろな論者の名言集ですが、当時人生に悩んでいた時の大きな励みになった本です。毎日のごく当たり前の普段の生活が「もっとも大切な人生」だということを教えてもらいました。そのことは今も変わりなく、心の中で大切にしています。目標が見えなくて沈んでいたころ、私に「希望と勇氣」を与えてくれた本です。本自身は茶色に変色していますが、今でもふと思い出し、ページをめくり、元気を取り戻しています。（たぶん今は絶版になっていると思います）

私は決して読書家ではありませんが、それでも私の経験上「本を読む」ことは大学時代の経験の一つだと思います。社会人になると仕事

心の時間となり、ゆっくり好きな本を読むということがなかなかできなくなります。仕事に関する本は読んでも、小説を読むことがなかなかできません。自由な時間がある大学時代にぜひとも読書の習慣を身につけて欲しいと思います。どんな分野でもいいですから、とにかくたくさん本を読むことが大切です。そして、本を読んでいると気持ちが落ち着き、知らないことが解ってくる、知識が増えてくるということもあります。自分の「こころ」の中に新しい世界が生まれてくるところが読書の魅力だと思います。読むことによって何かが変わってくる、自分が変わってくる、そこが面白いところです。

これからの社会は、ますますグローバル化が進行していきます。新しい時代を切り開くためにも、幅広い教養を基盤とした「考える力」、「課題解決力」が大切です。それには普段からしっかりと「本」を読み、「読書力」をつけることが重要です。私もこれから図書館に足を運びたいと思っています。

~~~~~  
\*『俺の胸に火をつけた言葉』 本学所蔵あり  
159.7 ||KA 4階和書



知る人ぞ知る！

### 図書館カウンター横の展示コーナー



きっかけは辻村深月の『かがみの孤城』が、本屋大賞をとったことでした。そういう訳だから展示コーナー作っていい？と乗り込むと、どうぞ〜♪と数秒後にはコーナーができました(さすが図書館。いろんな意味で)。できる範囲で続けていきますので、よろしければお付き合いください。  
こども学専攻 准教授 森木朋佳





# 学生図書委員の活動報告



委員長  
英語科2年

H. M.

2年間図書委員をして、本はもちろんのこと、人と関わることが好きになったように感じます。

本を読むことは、新しい自分や人に会うことに繋がると考えます。みなさんも、昔読んでいた本を数年後に読み返してみると受け取り方が変わっていたことはありませんか。また、そこまで話す機会のなかった人とも共通の好きな作家がいたことで会話が弾んだことはありませんか。このように、本は私たちの人生に彩りを与えてくれます。

課題が出たときにいつも向かう本棚だけでなく、普段は読まない本が並ぶ棚へも足を運んでみてはどうでしょうか。新たな自分や人との出会いを楽しめるかもしれません。



副委員長  
こども学専攻2年

K. M.

私は2年生になって図書委員に就きました。1年生のころから空き時間の時は図書館で自主学習をしていて馴染み深かったからです。

今でも自分が興味のある分野の本を楽しみながら読んでいます。

私がおすすめる本は『きもの文様図鑑：明治・大正・昭和に見る』です。2年生のみなさんのほとんどは成人式に着用する着物を決めたいと思います。実は着物に描かれている柄や花にはとてもめでたい意味が込められているということを知っていますか？その柄がいつ頃から文様として取り入れられることになったのか、どんな意味が込められているのか、ぜひこの本で探してみてください。きっとその着物を自分が着ることが誇らしくなってくると思います。



書記  
デザイン表現コース1年

H. S.

私が図書委員の書記として活動してみて、最初は、私以外の方が先輩方だったので、とても緊張していました。しかし、

図書館の展示や純短祭の展示に関しても、締め切りまでの計画や、アイデアを積極的に話し合っています。加えて、一年生の私の意見もしっかり聞いてくださり、メモを取る際にもゆっくりと確認していただくので、とても楽しく、図書について話し合いができて、とても充実しています。

私のおすすめる本は、村山早紀の『コンビニたそがれ堂』シリーズです。たそがれの時間だけに出没する、お稲荷さんが経営をしていると噂される心から欲しい物が手に入る不思議なコンビニが現れる街を舞台に、様々なお客さんをめぐる不思議でどこか温かい物語です。



学生図書委員は各クラスから1名ずつ選出され、1年間図書館に関する様々な活動を行います。



## 図書委員の活動内容

- 各月のテーマ展示
- 純短祭での展示
- 図書館内の清掃
- 図書の配架・書架整理
- 図書館の広報活動
- など



# 展示活動

## 月毎のテーマ展示

各月ごとに学生図書委員の担当がテーマを決め展示を行っています。様々な工夫がされ、それぞれの学科・専攻・コースの特徴がよく表れている展示です。



「家族」(5・6月)  
英語科



「ものづくりワールド」(10・11月)  
こども学専攻



「夏」(7~9月)  
現代ビジネスコース



「クリスマス」(12月)  
食物栄養専攻  
生活クリエイティブ/デザイン表現コース



こども学専攻1年  
T. Y.

### 図書委員からオススメの本

小さい頃に好きだった絵本は何ですか。懐かしい思い出に浸りたくなった時におすすめなのが大崎梢著『ふたつめの庭』です。この本の面白いところは絵本を元に事件を解決していくところです。本のなかには昔懐かしい絵本がたくさん登場してくるので、幼い頃に読んだことのある絵本が出てくるかもしれません。推理だけでなく、恋愛もありワクワクドキドキとした気持ちになれる一冊となっています。読んだ後に思わず笑みがこぼれてしまうような温かい本です。ぜひ読んでみてください。



新潮社  
2013.5

## 純短祭での展示

純短祭での展示の様子です。学生図書委員がオススメの本を紹介しました。



準備の様子

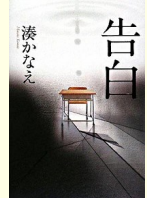


現代ビジネスコース1年  
U. S.

### 図書委員からオススメの本

私のおすすめの本は湊かなえの『告白』です。衝撃的で現実に限りなく近い内容です。人間の負の部分が上手く表現され、最後まで夢中になって読んでしまいます。他にも湊かなえ作品は図書館に沢山あるので、図書館に来て探して欲しいと思います。

また、勉学に励む上で、参考資料は必須です。鹿児島純心女子短期大学の図書館では1人15冊も借りることができ、図書は2週間、雑誌は4日間の貸出期間が設けられています。また、4階と5階に渡って膨大な図書があります。是非気軽に利用してもらいたいです。



双葉社,  
2008. 8



食物栄養専攻2年  
T. A.

### 図書委員からオススメの本

直木賞受賞作『破門』が話題となった『疫病神シリーズ』の第一作。産廃処理場建設を巡るトラブルに、建設コンサルタントの二宮とイケイケヤクザの桑原が巻き込まれ、奔走する話です。いわゆるハードボイルドで、血生臭い暴力や金に群がる汚い人間がたくさん出てきますが、二宮と桑原の関西弁（舞台は大阪）やちょっとした憎まれ口、行動をともにしながらも上げ足を取り合う姿がテンポがよく、エンターテインメントの要素を詰め込んだ楽しさがこの作品の魅力です。

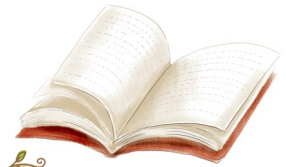


KADOKAWA,  
2014. 12





# 学生時代にとってほしいこの1冊



## 人生はあなたに絶望していない

英語科 学科長 有馬 義秀

「人間、誰しもアウシュビッツ（苦悩）を持っている。しかし、あなたが人生に絶望しても、人生はあなたに絶望していない。あなたを待っている

表紙裏には1969年10月27日（月）読了と書いている。この本との出会いは本当に衝撃であり、「人生はあなたに絶望していない」という実存的転換が私の人間観にどれほどの示唆を与えたかしかない。

る誰かや何かある限り、あなたは生き延びることができるし、自己実現できる。」これは、世界的ベストセラー『夜と霧』（ドイツ強制収容所の体験記録）を書いた精神科医V・E・フランクルの言葉である。

また、当時広島に学び、20万人余の死者を出した忌まわしい原爆の悲劇の街で、戦争と平和、人間の生きる意味、何のために学ぶのかなど、友人たちと夜を徹して議論したり、平和公園にやってくる外国人旅行者たちと語らったりする中で、様々な感慨や疑問を感じつつ彷徨っていたあの頃出会ったこの貴重な一冊。英語教師として目指すべき方向も何か見えてきた気がした。

ナチスの強制収容所における組織的集団虐殺は、アウシュビッツ収容所だけでも三百万人の人名が絶たれ、総計すれば六百万人に達すると言われる。このフランクル一家も自らユダヤ人としてアウシュビッツ収容所に囚われ、奥さんも両親もガス室で殺されたが、彼だけは奇跡的に生還した。彼は、その「強制収容所における一心理学者の体験」として、いつ殺されるかわからない煉獄の中で、極限状態における人間の姿を理解しようとした。人間は極限状態にあっても、自己を見失わず、神様の態度を取れると言う。通りすがりの人に暖かい言葉をかけ、なげなしのパンを譲っていた人々は確かに存在した。強制収容所は人間からほとんどすべてを奪ったが、たった一つ、与えられた環境でいかに振る舞うかという、人間としての最後の自由だけは奪えなかったのである。

本書『夜と霧』に全力で向き合えば、人間の持つ残酷性・不条理、そして戦争のもたらす非人道性に重苦しい思いを抱えることになるかもしれない。しかし、目を背けてはならない。いや、むしろ今この本を読めることはいかに幸せなことか。ましてや、困難な状況下に置かれている人、「なぜ生きるのか」に悩んだことのある人すべてに私は心から薦めたい一冊である。

私がこの本に出会ったのは、大学3年生の時であった。今ではすっかり黄ばんでしまった本書の



みすず書房, 1971.11 (新版)  
946||FR 短大5階和書に所蔵

この新聞をご存知ですか？

## 「織研新聞」



ファッション業界の情報を網羅した新聞。業界に関するニュースだけでなく、展示会や人材教育、ネットワーク、セミナー情報などファッションビジネスに役立つコンテンツなども掲載されています。将来、ファッション業界への就職を目指す方はもちろん、ファッションに興味のある方にもぜひ読んでほしいです。

## 小川学夫名誉教授

## 第69回南日本文化賞受賞記念



先日、身辺整理をしていたら「実業の日本」という雑誌が出てきた。いつ頃の発行かと見てみたら、昭和47年6月1日号である。

今の私を知る人には「あなたは奄美の島唄研究一筋にやっ

て来たのではないのか」と尋ねられそうだが、私は当時、今の奄美市名瀬の楽器店に勤めていた。そこで、奄美の島唄レコード制作に携わりながら、何ゆえか管理職に就いていたのだ。こんな雑誌をとっていたのも、店の経営について、ある程度勉強しなければならなかったからである。

ところで、何年分かの雑誌も大方処分したはずなのだが、どうしてこの号だけを残したのか。もちろん理由があった。この号は「特別企画 としておきの知的話題集」と銘打った今でいう「雑学」特集号であった。そのなかで、私に必要なだったのは「スピード時代にのろくなるもの」という700字ほどのコラムである。筆者は、学生時代に演劇論などを教わった河竹登志夫（本名 俊雄）先生であった。読んでみると、美空ひばりの「りんご追分」も、能楽も、浄瑠璃も、新国劇の「赤城の山もこよいかぎり・・・」の名セリフも、全部時を経るに従って、早さがゆっくりしてきているのだというのだ。ちょうどそのころ、奄美の島唄も、だんだん時代が新しくなるにつれて遅くなっていることに、私も何となく気付きたころであった。

「ああ、これは普遍的な現象なのだ」と教えられて私は嬉しくなったのである。以来私は、島唄の時代の変化を語ったり、書くときには、必ずと言ってよいほど、唄の速度のことから話すようになったが、もし河竹先生のこの文章に出会わなければ、今でも気付かなかったことかもしれないのである。

こんなことをいうために、あえて1冊の古雑誌のことを書いたが、ここで言いたいのは、大切なことは必ずしも学术论文や重々しい古典全集等に載っているとは限らない。いわゆる雑書や、短い新聞記事の中にあるのだということである。

そこで、図書館への注文である。一見役に立ちそうもない雑書にも、宝が紛れ込んでいるかもしれない。そのことを思って大切にしてほしいということなのだが、現在日本中の図書館が沢山の本に押しつぶされそうになっていると聞く。せめて、私たちは、飛行機に乗っても機内誌の1ページに宝を探すべく心がけようと、こうとしか言えない。

### 略歴

#### 小川学夫（おがわ ひさお）

1940年北海道生。大学院生時代に初めて奄美を訪問。1969年に早稲田大学大学院文学研究科修士課程を修了、1971年に奄美に移り、セントラル楽器、南海日日新聞社などに勤務。島唄のレコード製作、島唄大会やコンクールなどの企画に携わる。1987年に鹿児島に転居、同年に「**沖縄文化協会賞（仲原善忠賞）**」を受賞。**1990年から2007年まで本学教授として勤務。1995年～2007年までは本学図書館長も務める。2006年には「南海文化賞」を受賞。2008年に本学名誉教授に就任。2018年11月、「第69回南日本文化賞」を受賞。**数々の島唄の編集に携わり、現在でも島唄研究の第一人者として精力的に活躍中。

### 主な著書・編集

『奄美民謡誌』法政大学出版局 / 1979年

『奄美の島唄』根元書房 / 1981年

『歌謡(うた)の民俗 - 奄美の歌掛け -』

雄山閣出版 / 1989年

『奄美シマウタへの招待』春苑堂出版 / 1999年

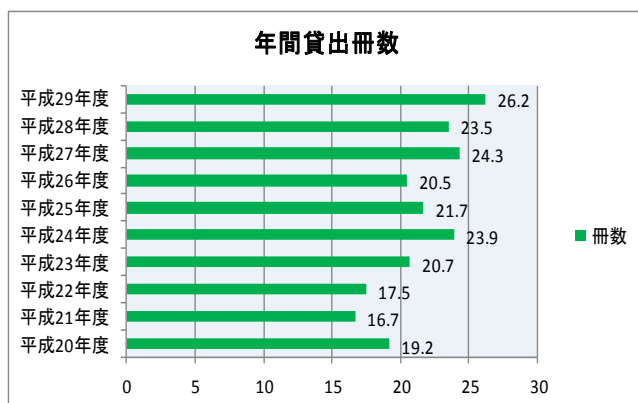
『歌い継ぐ奄美の島唄』

奄美島唄保存伝承事業実行委員会/2014年

他多数あり



## 年間貸出冊数



平成29年度の総貸出冊数は学生526人に対し13,825冊でした。1人当たりの貸出冊数は**26.2冊**と昨年を上回りました。全国平均は約8.9冊ですので、それに比べるとかなり高い数字です。学科・コース別では以下の通りです。

|    |              |       |
|----|--------------|-------|
| 1位 | 英語科1年        | 65.0冊 |
| 2位 | こども学専攻2年     | 64.1冊 |
| 3位 | 生活クリエイトコース2年 | 21.0冊 |
| 4位 | 英語科2年        | 18.5冊 |
| 5位 | 食物栄養専攻2年     | 17.3冊 |

分類別貸出順位は、

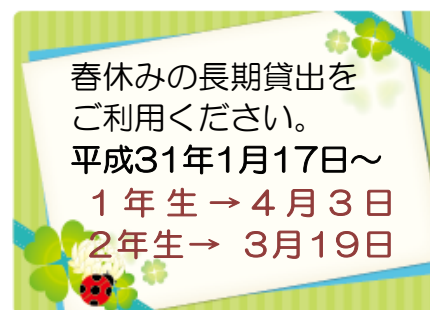
**1位 芸術・美術、2位 言語、3位 文学** でした。

## 図書購入依頼・相互利用

平成30年度の図書購入依頼（リクエスト）、他大学への貸借・文献複写依頼・受付の件数は以下の通りです。来年度も引き続きご利用ください。

- 図書購入依頼・・・34件
- 他大学図書貸借依頼・・・102件（内訳：学外0件/学園内102件）
- 他大学図書貸借受付・・・175件（内訳：学外8件/学園内167件）
- 他大学文献複写依頼・・・0件
- 他大学文献複写受付・・・4件

（平成31年1月11日現在）



## 業務日誌

### 4月～5月 オリエンテーション・ガイダンス

- 4月19～20日 九州地区私立短期大学図書館協議会総会・研修会(鹿児島市)  
九州地区大学図書館協議会総会（鹿児島市）
- 5月28日 鹿児島県大学図書館協議会総会（鹿児島市）

### 6月1日～29日 研究室蔵書点検

- 6月23日 西日本図書館学会総会・春季研究発表会（久留米市）
- 7月27日 学術情報セミナー 2018 in 福岡（福岡市）

### 8月6日～31日 図書館蔵書点検

- 8月24日 九州地区私立短期大学図書館協議会夏期研修会（中津市）
- 10月19～20日 全国図書館大会（東京）
- 10月22日 鹿児島県大学図書館協議会 研修会・講演会（鹿児島市）
- 11月14日 鹿児島県図書館大会（鹿児島市）
- 11月24日 西日本図書館学会秋季研究会（鹿児島市）

### 卒業後も利用できます

卒業生は、学生時と同じように図書館を利用できます。図書は2週間、雑誌は4日間借りることができます。どうぞご利用ください。

## 編集後記

今年も「図書館だより」を無事に発行することができました。本稿は先生方からの記事が例年より多く、大変深みのある号となりました。ご協力いただきました先生方、本当にありがとうございました。

いよいよ平成も終わりに近づいてきました。生まれた「昭和」が遠ざかっていくのはさみしいですが、「新しい」という意味ではワクワクする部分もあります。さてさて、図書館にはどんな「新」がやってくるのか・・・?!楽しみに待ちたいと思います。